

## 生まれて初めての発熱

# 突発性発疹

突発性発疹は生後半年から1歳くらいまでの赤ちゃんがかかりやすいウイルス性の感染症です。生まれて初めての発熱ということもよくあります。

39℃ほどの高熱になりますが、本人はケロッとしていることが多いです。親御さんにとっては「病気の時の子どもの見方」を勉強する良い機会だと思ってください。



世界の  
子どもに  
ワクチンを

日本委員会

赤ちゃんは生まれてくるときにお母さんからたくさんの免疫をもらってきます(移行免疫)。しかし、生後半年くらいになるとその免疫も次第に少なくなり、やがて自分で作り出していかななくてはなりません。

また、赤ちゃんが成長するにつれて、他の大人や子どもたちに接触したり、外に出かけていくことも多くなります。そのため、いろんなウイルスや細菌と出会うことになります。

突発性発疹もウイルスの病気ですが、生後半年くらいたって移行免疫がなくなってくると、かかりやすくなります。多くの赤ちゃんにとっては生まれて初めての発熱。それも高熱なので、親御さんはずいぶん心配なことでしょう。

でも、元気がよく、水分などもきちんとして取ってくれているようならゆっくり待っているだけで大丈夫です。なかなか熱が下がらず心配だとは思いますが、それも親としての「勉強」だと思って、お子さんとともに過ごしていきましょう。



# とっぱっせいほっしん (突発性発疹)



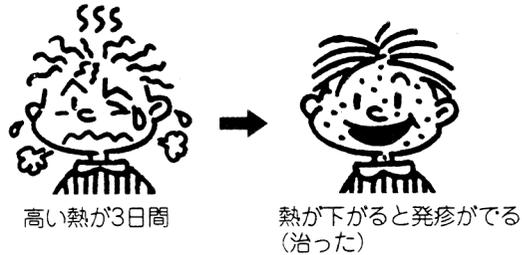
## 突発性発疹とは

生後4~5か月から1歳ぐらいの赤ちゃんが、突然高い熱を出して3~4日続きます。生まれて初めての熱であることが多く、咳や鼻みずは出ません。熱が下がると、体中に発疹が出ます。便もゆるくなります。はしかや三日ばしか(風疹)とは全然別の病気です。



## 治療

熱が高くて機嫌がわるければ解熱剤を処方します。



## 突発性発疹をおこすウイルス

突発性発疹は、ヒト・ヘルペスウイルス6 (HHV6)による感染症だということが、近年分かりました。

このウイルスは、病気が治った後もそのまま体の中に残っているという面白い特徴があります。そのため、周りにいる大人から赤ちゃんがウイルスをもらい、感染することがはっきりしました。

また、最近、ヒト・ヘルペスウイルス7 (HHV7)という新しいウイルスが見つかりました。これは、一度HHV6の感染をおこしたあとに感染し、軽い突発性発疹の症状をおこします。ですので、突発性発疹は一度ではなく、何回もかかることがあります。



## 家庭で気をつけること

- ① 高い熱 : とても高い熱が続きますが、熱で頭がおかしくなることはありませんから、あわてないように。熱が続くあいだは赤ちゃんが過ごしやすいようにしてください。着せすぎ、掛けすぎに注意し、いやがらなければ氷枕で冷やすのもよいでしょう。
- ② ミルク : 飲みが少なければ、うすめてみてはどうでしょう。アクアライト(アクアサーナ)や果汁のほうを好むなら、それもいいですね。熱があるので、水分を十分に与えることです。
- ③ 離乳食 : 食べるならいつもどおりに。
- ④ 入浴 : 高い熱のあるときや元気がないとき以外は、発疹があっても入浴してよいでしょう。



## こんなときはもう一度診察を

- ① ひきつけたとき。
- ② 水分をあまりとらず、元気がないとき。

発疹が出るまでは先生も「突発性発疹らしい」としか言えません。高熱が続いて心配なときは昼間のうちにまた受診してください。